

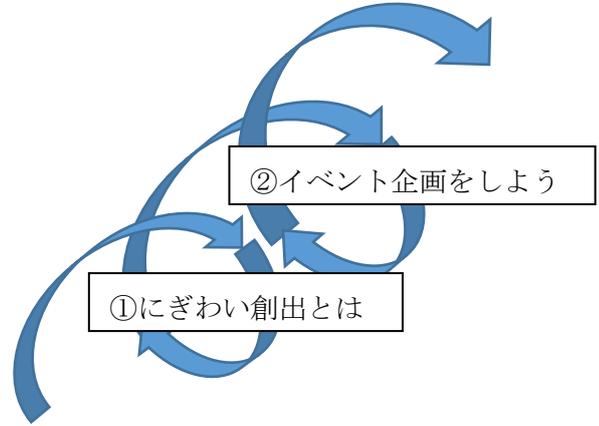
令和3年11月16日（火）第5校時  
 津和野町立日原中学校  
 指導者名 野村 啓介

単元名  
 「日原のにぎわいを創出しよう」

内容のまとめり  
 「町づくり」(全45時間)

1 単元の目標

日原地区のにぎわいを創出するための探究的な学習を通して、ふるさとの良さや課題を自分との関わりでとらえ、協働的に課題を解決するとともに、今後の学習や生活の在り方に積極的に生かすことができるようにする。



2 単元設定の理由

(1) 生徒の実態から

【個人情報保護のため省略】

(2) 本単元で育成を目指す資質・能力

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①町づくりはそこに住む人々とともに変化するものであること、持続可能な地域活性化の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解する。 ②持続可能な地域活性化の実現について、地域とそこに関わる人や組織との関係を探的に学習してきたことで理解できたことに気づく。	①日原の現状に目を向け、活動の意図や目的を明確にして課題を見出す。 ②課題解決に必要な情報を、目的に応じて手段を選択し、適切な方法で蓄積することができる。 ③調べたり考えたりしたことを整理しまとめ、相手や目的に応じて論理的に表現できる。	①主体的に課題の解決に向けた探究活動に取り組む。 ②自他の良さを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組む。 ③学習したことを実社会・実生活の問題の解決に生かそうとする。

(3) 教材について

日原地区は、現在人口 637 人である。2016 年時点では 741 人であったが、5 年間で約 100 名（14%）もの人口が減少し、店舗数も大幅に減少している。こうした背景から、3 年前、日原地区の活性化のために「日原にぎわい創出拠点かわべ」（NPO）が設立された。かわべは日原市街地を中心とした「にぎわい」を創出し、地域住民の文化・交流の場として生活基盤を向上させること、さらには、カフェ・交流広場も整備し、町内外から幅広く人を呼び込み、人的・経済的交流を促すことで日原地区の活性化・再生を図ることを目的としている。

「かわべ」ではイベントも開催され、中学生はスタッフとして働いたり、イベントを企画して実施したりすることもできる。こうした「かわべ」での活動を通して、日原の現状やそこで生活する人々の思い、活性化のために活動している人々の熱意や工夫を学び、地域とのかかわりの中で自分にできることを真剣に考えることができると考える。

### 3 指導にあたって

#### (1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する観点から

本校では「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、協調的な学習に発展しやすい「知識構成型ジグソー法」(東京大学 CoREF 提唱)を用いた授業改善に取り組んできた。生徒はエキスパート活動でそれぞれが調べたことをジグソー班で伝え合い、そこから学びを深めていくが、総合的な学習の時間ではとりわけ授業外での個人のこれまでの経験が学びを深める切り口となることが多い。反面、そうした経験に乏しい生徒はエキスパート活動資料に書かれている内容にとどまり、情報の共有で終わってしまう場面も見られた。そのため、本単元では教材をより身近なものとし、かつ授業の中で経験を積むことで、主体的に学び、考えを深めることを目指した。

本単元での生徒の最終的な活動は「にぎわい創出に向けたかわべでのイベント開催」としている。そのためには、「にぎわい」とは何か、それを創り出すためにはどうすればよいかといった、いくつかの課題が出てくるはずである。これらの課題が出るたびに生徒は探究的な学習の過程を繰り返すことになる。そして、それらが本当に深まるためには特定の生徒のみが深めたものを共有するだけでは十分でなく、一人一人が主体的に課題と向き合うことが大切である。その過程こそが、育成を目指す資質・能力をつけるために必要であると考えられる。

そこで、本単元では探究のサイクルの第一歩にあたる「課題の設定」のきっかけとなる体験的学習活動を3つ計画し、生徒がその後の学びに主体的に参加できるようレディネスを整えることとした。生徒はいずれかの活動にスタッフとして参加し、経験を積んだ。役割もそれぞれに異なるため、活動の振り返りや共有を行う際も各活動のエキスパートとして自信を持って発言することができ、自分たちなりのにぎわい像について深めた。学習前は「人がたくさんいる」「わいわいがやがや」といった単純なにぎわい像をイメージする生徒が多く見られたが、「人とかかわり」「価値ある思いが飛び交うこと」などといった多面的なにぎわい像を持つ生徒も見られるようになった。

文化祭では、これまでに学習したことをポスターセッション形式で発表した。「かわべについて」、「日原の現状」、「アンケートから見る日原」、「かわべでの活動を通じて考えたこと」の4つのグループに分かれて、情報の取捨選択や追加調査などを行い(情報の整理・分析)、互いの発表(まとめ・発表)を双方向的に聞きあうことで各グループの内容をある程度把握している。

本時はこうした積み重ねを経て自分たちが目指すにぎわいをイベントを通じて実現するために、その開催に向けて大切なことは何かを考えていく。この過程においては、これまで学習してきた「にぎわい像」や「多様な情報」を根拠に、自分たちが企画するイベントの方向性を定めていくこととしている。

今後は、にぎわい創出に向けたイベントを企画していくが、本時を経ることで、生徒自身がねらいを達成するための修正をしながら、話し合いを行うことができると考える。

#### (2) カリキュラム・マネジメントの観点から【PDCA サイクル、人的・物的体制の整備】

昨年までの総合的な学習の時間を振り返ると、生徒は各活動にまじめに取り組むが、「主体的・対話的で深い学び」や「探究的な学習」になっておらず、与えられた課題をこなしている印象であった。

生徒は、各小学校区のひとつ・もの・ことについて学んでおり、町の活性化のための提言をするなど多様な活動に取り組んできている。こうした経緯や中学校での修学旅行で特産品の商品販売等をしてきた流れから、中学校の総合的な学習の時間では、小学校時よりも視野を広げ津和野町全体を対象にすることが多かった。しかしながら授業を実施する中で、観光業が中心となる旧津和野町に対する生徒の反応としては「別の町」という印象が強く、自分とのかかわりの中で課題に対して取り組むことが難しかった。そのため、探究的な学習へと発展しづらく、調べたものをまとめるといった活動に留まりがちで、ねらいとした資質・能力を育成するためには改善が必要であると考えた。

そこで今年度は学びの場を日原地区に焦点をしぼり、生徒が課題を自分事としてとらえられるように計画した。さらに、探究的な学びのサイクルを意識し、小学校での学びの延長線として「日原のにぎわいを創出する」という単元を設定した。

日原地区には「日原にぎわい創出拠点かわべ」が2018年に設立されているが、小中学校では各教科等の学習で利用した例はなかった。人的・物的体制の整備という観点から魅力化コーディネーターと連携し、「かわべ」において1年生の総合的な学習の時間における「町づくり」をテーマにした学習の拠点を置かせていただくことになった。

こうしたカリキュラム・マネジメントにより、1年生の総合的な学習の時間を「かわべ」を舞台として、「にぎわい」というキーワードを軸に、探究的に学ぶ基盤が整ったと考える。

#### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<p>①町づくりはそこに住む人々とともに変化するものであること、持続可能な地域活性化の実現には多様な問題が存在していることや問題解決に向けて取り組む人々や組織があることを理解している。</p> <p>②持続可能な地域活性化の実現について、地域とそこに関わる人や組織との関係を探的に学習してきたことで理解できたことに気づくことができる。</p>	<p>①日原の現状に目を向け、活動の意図や目的を明確にして課題を見出すことができる。</p> <p>②課題解決に必要な情報を、目的に応じて手段を選択し、適切な方法で蓄積できる。</p> <p>③調べたり考えたりしたことをまとめ、相手や目的に応じて論理的に表現できる。</p>	<p>①自分の意思で目標に向かって課題の解決に向けた探究活動に取り組むことができる。</p> <p>②自他の良さを生かしながら協力して問題の解決に向けた探究活動に取り組むことができる。</p> <p>③学習したことを実社会・実生活の問題の解決に生かそうとしている。</p>

5 単元の指導計画と評価計画（4 5時間扱い）

デザイン マップ	時	主な学習活動	知	思	主	評価方法
出 会 わ せ る	5 + 課 外	○これまでの学習を振り返ろう 学習のテーマ：日原のにぎわい創出に向けて				
		○かわべについて、創立に携わった方を招いて説明を聞く。				
		○かわべに行き、施設の説明を聞く。 ○スタッフとしての参加やイベントの企画をしてほしいことをかわべスタッフから聞く。				
		○事前アンケート ○イベント企画に必要な視点について学習する。				
		○かわべで開催されているイベントにスタッフ等として参加し、イベント開催についての視点について考える。				
高 め さ せ る	2 0	○各体験のワークシートを取りまとめたものをもとにまとめを行う。 ○各イベントが目指したにぎわいについて考える。		③		ワークシート
		○文化祭での発表内容 <4班に分かれてポスターセッションを行う> A：かわべについて B：日原の課題について C：アンケートについて D：イベントに参加してみよう ①現時点で「にぎわい」を中心にしたイメージマップを書き、自分が目指すにぎわい像を考える。 A:かわべが目指すにぎわい B:日原の現状から、日原に必要なにぎわい C:日原に住む人が考えるにぎわい D:イベントに参加して考えたにぎわい ②各グループで伝えたいことを明確にし、担当を決める。 ③担当となった発表資料（ポスター）のパーツを作る。 ④グループですり合わせをしながら「にぎわい」について考え、まとめる。 ⑤ポスターセッションの練習を行う。（伝える、答える、資料準備）		② ③	① ②	・生徒観察 ・ポスター
		ポスターセッションを通して、自分たちの考えるにぎわいについて発表する。			①	・発表の様子

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○班ごとにいただいた意見をまとめ、各チームがにぎわいについてもう一度考え、まとめる。(エキスパート)</li> <li>・地域に住む大人の視点からの意見や助言を受ける。</li> <li>・課題の練り直しを図る。</li> </ul>			①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発言</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
		○いただいた意見を整理し、自分たちが目指すにぎわいについて再考する。(エキスパート)	①			
		<p><b>【本時】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○異なる班のメンバーが集まり、これまでの学習をもとに、イベント開催に向けて大切にしたいことを話し合う。(ジグソー)</li> </ul>		①		
次につなげる	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企画書の作成</li> <li>・イベント企画の視点を意識しながら考えていく。</li> <li>・実現可能かどうかという視点も持って考える。</li> </ul>			③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画書</li> <li>・生徒観察</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ブラッシュアップ</li> <li>・ゲストティーチャーへ企画を説明し、意見をもらう。</li> <li>・改善する。</li> </ul>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○かわべへの提案</li> <li>・企画書を用いてかわべスタッフに対して各班がプレゼンを行う。</li> </ul>		③		<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒観察</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○採用された企画の準備</li> <li>・全員で必要な役割を分担し、準備を行う。</li> </ul>				
		○企画の実施			③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒観察</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○振り返り、事後アンケート</li> <li>・自分たちの目指す日原のにぎわいとはどんなものか</li> <li>・目標が達成できたか、またそう考える理由はなにか</li> <li>・総合的な学習で学んだことをどのように生かすか</li> </ul>	②			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・イメージマップ</li> </ul>

## 6 本時の学習

### (1) 本時のねらい

これまでの学習で得られた多角的な知見や他者の考えと、自分の考えるにぎわいを照らし合わせ、にぎわい創出のためのイベント企画で大切にしたいことを考えることができる。(思考・判断・表現①)

時間	学習活動	教師の支援・留意点
	<p>(前時まで)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭での発表をもとに、A～Dのグループが文化祭とその後の意見交換についてまとめた資料を作成している。</li> <li>本時の課題と流れを確認する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;">             にぎわい創出に向けたイベントで大切にしたいことを考えよう           </div> <p>[個人]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して、自分なりの根拠を持って意見を考える。</li> </ul> <p>[ジグソー]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ジグソー班で集まり、自分なりの根拠を持って意見を述べる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin: 10px 0;">             A:かわべが目指すにぎわい              B:日原の現状から、日原に必要なにぎわい              C:日原に住む人が考えるにぎわい              D:イベントに参加して考えたにぎわい           </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>多様な情報や相反するニーズがある中で、全てを盛り込むことは困難であることを踏まえ、各班で重要だと考えるものをいくつか選び、それらを中心に据えて話し合う。</li> </ul> <p>&lt;予想される意見&gt;            対象：全年齢、若者、中学生、こども            イベント内容：自然、交流            人：人とのかかわり、自分が楽しいと思えるか            雰囲気：楽しい、明るい、価値ある思い            もの：店、遊び場、名産品など</p> <p>[クロストーク]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各班に発表させ、差異や共通点などについて質問や意見を挙げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>この後の話し合いの目的を明確にさせる。</li> <li>多様な考えや情報があるため、「しばっていく」と伝え、根拠を述べることの必要性を高めさせる。</li> <li>理由や根拠が重要であることを押さえる。</li> <li>資料は必要に応じて活用してよいことを伝える。</li> <li>「複数挙げてはだめか」という問いに対しては、どうしても必要だと考えるものはその根拠とともに話せるようにしておくことを伝える。</li> <li>資料の説明に終始しないよう、必要に応じて資料を活用することを伝える。</li> <li>ホワイトボードは思考ツールとして活用させ、根拠が話せるようにしておくことを押さえる。</li> <li>「自分が楽しいと思えること」、「人とのかかわりに関すること」が多く上がると予想される。「大人がそう言っていたから」といった短絡的なものにならないよう、理由・根拠の深さが大切であることを伝え、グループ内で深めさせる。</li> </ul>

	<p>挙げた「大切にしたいこと」をそれぞれに意義があることを確認する。</p> <p>[個人]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の話し合いや最近の話し合いで、自分の考えに影響を与えた意見や、共感できたことなどを振り返る。</li> <li>・話し合いで出てきた大切にしたいものの中で、自分が一番大切にしたいものとその理由を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大切にしたいこと」と「根拠」の2つの要素があるが、大切にしたいことが同じでも根拠が異なるなど、共通点や相違点に着目させる。</li> <li>・他の班との共通点や相違点を見出し、自分たちが大切にしたいことを明確にさせる。</li> <li>・意見の中には、「対象」や「イベント内容」などの分類が可能なものが出てくると考えられる。これらを分類ごとに比較することで、議論の対象が明確になる。分類が違うものは対立しないため、そのまま残しておくことも考えられる。</li> <li>「若者が・日原の自然を生かして・異年齢と交流を深める」など。</li> <li>・挙げた意見はいずれもこれまでの学習のエッセンスであり、企画を具体的に考えていく段階で、選定すればよいことを伝える。</li> </ul>
--	---	---

(2) 評価

本時のねらい	十分満足できると判断される生徒の様子	おおむね満足できると判断される生徒の様子	努力が必要とされる生徒への手だて
<p>これまでの学習を生かし、にぎわい創出のためのイベント企画で大切にしたいことを考えることができる。(思考・判断・表現)</p>	<p>他の意見と自分の意見を比べたり、取り入れたりしながら根拠を持って、大切にしたいことを挙げることができる。</p>	<p>これまでの学習を踏まえ、自分なりの根拠を持って大切にしたいものを挙げるができる。</p>	<p>これまでの学習で考えた自分なりのにぎわい像と班で考えた意見との共通点を見つけさせる。</p>